

わが人生

総代 藤本安治

明けましておめでとうございませう。皆様お揃いでよい年をお迎えの事とお喜び申し上げます。昨年は朝日寺の別殿改築に際しましては、皆様には多大なる寄附を戴きまして有難う御座いました。お蔭を持ちまして立派に出来上りました。皆様と共に御喜び申し上げます。

人間にとって新しい年は、新しい生活に入る大きなきっかけとなるものです。新春に当り、私の歩んで来た道を申し述べてみます。

私は兵庫県赤粟郡山崎町門前三十八番屋敷出生、明治四十一年二月二十六日届出、森川又兵衛の五男として入籍したのです。

此の山崎町は本多侯の城下町として栄え、昔は木炭材木の集散地として栄え、一日に馬車が千台も出入りして居ったのです。此の生まれた土地から私は深い事情が有って二才の時、邑久郡邑久町尻海の藤本八五郎の長男として育てられとる

十五才の時から家持ちと成って、祖父の代から板金業をして居たので私も板金の道を進む事に決め、久米郡福渡の板金業者の見習いに行つて、昼は板金の仕事を習い、夜は中学講義録で勉強したのです。夜遅く迄本を読むから仕事で覚えられないと、親方からよく叱られたものです。十八才の時から此の地を出て広島県の福山の方へ修業に出ました。そして、ようやく一人前の職人に成つて尻海に帰つたのです。

其の当時、愛生園の第一期の工事が始つて居た時分です。第二期の工事の時分からは私の請負で板金工事に朝は五時頃から、夜は十時頃迄よく働いたものです。そうしているうちに一段得意先も広がり、各方面に多忙を極めて居りました

水害後二年程経つた時分に、尻海を出て尾張で営業を始めたのです。今日ではホームセンター播洲屋として開業しております。どうか宜敷くお引立ての程お願いいたします。

播洲屋の方は息子にやらせて、私は朝日寺別殿の板金の仕事を以て以来は耳が

健康と信仰

大東 山下達雄

現在の世の中は暮しに於ては、一に金、二にも金、金さえあれば何不由なく求められるが、お金で求められない精神面があります。お金だけあれば幸福と云えるでしょうか？...私は、一に健康、二に努力を信條としております。健康にて努力すれば毎日、が幸福になれることを信じております。

健康に働けるには先祖あつての現在です。先ず先

のです。それが不幸にして私の六才の時、父の八五郎が死亡し、それから祖父の手で養育されて居たのですが、又、不幸な事に、祖父が私の十五才の時に死亡したのです。

十五才の時から家持ちと成って、祖父の代から板金業をして居たので私も板金の道を進む事に決め、久米郡福渡の板金業者の見習いに行つて、昼は板金の仕事を習い、夜は中学講義録で勉強したのです。夜遅く迄本を読むから仕事で覚えられないと、親方からよく叱られたものです。十八才の時から此の地を出て広島県の福山の方へ修業に出ました。そして、ようやく一人前の職人に成つて尻海に帰つたのです。

悪いし、足腰が悪いので仕事はやめて、日本書道協会の通信教育の本科に入会して習字を勉強しています。本年十月に本科は修了しました。今は、高等科の勉強をして居ります。『なせば成る、なせば成らぬ何事も、成らぬは人のなせぬなりけり』。と言う言葉がある様に、一生懸命人生の目標に向つてやり通す事が第一と思つて居ります。それには体が元気でなければなりません。

毎日、朝夕先祖に礼拝をして、元気に守つていただく様をお願いする事です。金剛般若経にある『空即是色・色即是空。空はむなし、色は即物質、肉体は物質だけれども物質は空なるものである。自分の心の姿が現れているもの、それが自分である。肉体は滅びても、生命は何千年経つても死なない。』

我々の先祖も、皆、仏から神に成つて生きて居るのだから、毎日手を合せて拝んで御願いをするのが第一かと思つて居ります。皆様と共に先祖を礼拝しましょう。

「青少年の健全育成」青少年をもつて言える庄田山字旭にあり、真言宗古義派に属し、本山は高野山金剛頂院にして本尊薬師如来。我々生活に結びつく信仰の有難さを知らしめた。新聞紙上に出ない日がない青少年の非行記事、世の中の乱れた現在、この乱れた世帯を育てるには健康と生活を守り育てることが最善ではないでしょうか？...私達も弘法大師さまのように民衆の中に生き、民衆と共に生活を守り育て、清き社会を造り、平和な世の中を築いて行く信仰に生きたいと願つて居ります。

十一月二十二日総代各位の奉仕により、鎮守堂の屋根瓦等の取りはずしが行なわれましたが、その時に不動明王像・御幣・護摩札等と共に四枚の棟札が出て来ました。下の表は棟札に書かれていたものを一つにまとめたものです。あわせて歴代住職名を書いておきます。寛延三年の棟札には更に藩主池田継政、家老伊木豊後・池田勘解由の名、一段下に社奉行廣内権右衛門、御郡代小堀彦左衛門、郡奉行井上佐平太、大庄屋牛窓村忠左衛門、当所名主近藤助九郎の名が見える。藩主・家老・社奉行・郡代・郡奉行・大庄屋の名主という当時の支配体制のもとに組み込まれた寺院の姿がうかがえます。

右の写真は修理中の鎮守堂を写したものです。尚、朝日寺建造物の登記

悪いし、足腰が悪いので仕事はやめて、日本書道協会の通信教育の本科に入会して習字を勉強しています。本年十月に本科は修了しました。今は、高等科の勉強をして居ります。『なせば成る、なせば成らぬ何事も、成らぬは人のなせぬなりけり』。と言う言葉がある様に、一生懸命人生の目標に向つてやり通す事が第一と思つて居ります。それには体が元気でなければなりません。

毎日、朝夕先祖に礼拝をして、元気に守つていただく様をお願いする事です。金剛般若経にある『空即是色・色即是空。空はむなし、色は即物質、肉体は物質だけれども物質は空なるものである。自分の心の姿が現れているもの、それが自分である。肉体は滅びても、生命は何千年経つても死なない。』

我々の先祖も、皆、仏から神に成つて生きて居るのだから、毎日手を合せて拝んで御願いをするのが第一かと思つて居ります。皆様と共に先祖を礼拝しましょう。

「青少年の健全育成」青少年をもつて言える庄田山字旭にあり、真言宗古義派に属し、本山は高野山金剛頂院にして本尊薬師如来。我々生活に結びつく信仰の有難さを知らしめた。新聞紙上に出ない日がない青少年の非行記事、世の中の乱れた現在、この乱れた世帯を育てるには健康と生活を守り育てることが最善ではないでしょうか？...私達も弘法大師さまのように民衆の中に生き、民衆と共に生活を守り育て、清き社会を造り、平和な世の中を築いて行く信仰に生きたいと願つて居ります。

鎮守堂修復から



を岡山市金本土地区屋調査士、久本公夫氏に依頼したところ、その調査申請に要した費用九万七千七百円を、鎮守堂修復のために寄附して下さいました。

新築及び修復年月	鎮守堂名称	住職名	世話人	大工及び左官
(一七五〇年) 寛延三年 三月上棟	山王宮	五世法妙 弟子恵仁房 法信	庄田 近藤庄兵衛 尻海 谷野十三郎	下山田村 則光市右衛門
(一八二三年) 文政六年四月	山王宮	八世法尊		
(一八六九年) 明治二年四月	鎮守山王 御神殿	十世法隆		
(一九三〇年) 昭和五年十一月	鎮守山王 御殿	十二世隆如	松本幸八 近藤泰造	大工 岩田勘藏 左官 榊木新四郎

歴代住職名

- 第一世 有遍
- 第二世 秀遍
- 第三世 法潤
- 第四世 法妙
- 第五世 法信
- 第六世 法洞
- 第七世 快翁
- 第八世 法尊
- 第九世 法義
- 第十世 法隆
- 第十一世 真道
- 第十二世 隆如
- 第十三世 正隆

十三仏巡り(2) 釈迦如来

もともと仏教は仏像をもたない宗教として出発した。最初はお釈迦さんの舎利(遺骨) 仏足石(足跡を表わす石) また菩提樹(お釈迦さんがこの木の下で悟りを開かれた)等を信仰の対象にしていたが、仏教がだんだん広い地域の人々に浸透していく中で釈迦像が作られる様になった。我が国でも知られるのは誕生仏・涅槃仏であるが、その他にも出城釈迦・苦行釈迦・降魔釈迦・成道釈迦等がある。最初の仏像はこういう生身の釈迦像であったが、だんだん時間が経過するに従って、人々は生身の釈迦から超人格的・超歴史的な絶対者としての釈迦の存在を考へる様になり、宇宙の實在そのものとしての釈迦如来像が作られる様になった。これが基礎になり薬師・大日・阿弥陀等の仏像が次々誕生していくのである。

付記

春にどちらかの霊場を巡りたいと思つて居ります。ご参加をお願いいたします。

お大師さまの千五百年ご遠忌まで、あと二年とせまりました。本山より「ご廟前奉納の御写経のすすめ」がまいっております。

御写経料紙セット五百円、奉納料一巻千円です。皆さん色々なお願いを込めてお写経下さい。朝日寺へお申し込み下さい。朝日寺密教婦人会を早々にも発足させたいと思つて居ります。皆さんのご参加をお願いします。